

平成29年度島根県公立高等学校入学者選抜について

1. 平成29年度入学者選抜学力検査問題の変更点

- (1) 単に知識や技能を問うのみでなく、思考力・判断力・表現力を問う問題を増やした。
- (2) 択一式の問題だけでなく、記述式・論述式の問題を増やした。

【ねらい】 変化の激しいこれからの社会を生きていくために必要な資質や能力など、幅広い学力を測ることができるようにするため。

- (3) 国語では、これまで出題していた放送による聞き取り問題を取りやめ、話すこと・聞くこと・書くことの力を総合的にみる問題を出題した。

【ねらい】 伝えたい事柄を明確にして書く力、複数の資料を適切に活用しながらまとまりのある文章を構成する力をみるため。

- (4) 各問題の配点を圧縮し、各教科50点の合計250点満点とした。

【ねらい】 部分点の幅を小さくし、採点基準をより明確にするため。

2. 学力検査結果の概要

本概要は、平成29年3月7日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。本検査は、中学校学習指導要領に沿って日頃の学習で積み上げられた学力を測るものである。

なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、前述のとおり今年度は出題内容を変更したため、単純に経年比較することはできない。

全ての教科に共通する学力の傾向は、次のとおりである。

- ① 基礎的・基本的な事項については、概ね定着している。
- ② 出題の意図を的確に読み取り理解する力や、論理的に考えたり、多面的・多角的に考えたりする力、また適切に表現する力に課題がある。

【国語】

本年度より聞き取り問題を廃止したことで、解答作成にじっくり取り組む余裕が生まれ、無答が減った。また、漢字・文法・仮名遣いなど基礎的・基本的な学力が身に付いており、活用型の問題にもきちんと対応できていた。一方で、文学的文章において登場人物の心情を深く読み取る力や出題の意図や条件を踏まえて的確に答える力には課題がみられた。今後は、基本的な知識の確実な定着と同時に、資料を柔軟に活用しながら目的や場面に応じて思考・判断し、適切に表現する力のさらなる育成が望まれる。

【社会】

問題構成を変更し、地理・歴史・公民的分野の学習内容を関連付けて思考・判断し、表現する力をみる問題を取り入れたため、難しさを感じる受検生もいたと思われる。基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえるが、一方で「お雇い外国人」の雇用理由や昼夜間人口差の理由について説明するような、資料を適切に読み取り制限字数内で表現する問題での正答率は低かった。基礎的・基本的な知識の確実な定着とともに、資料活用能力の育成と言語活動の充実が一層必要である。

【数学】

思考力・判断力・表現力等を問う問題が増えたり、第1問題の構成が昨年までと違ったりしたことで、難しさを感じた受検生もいたと思われるが、基本的な知識・理解に関しては正答率も高く学習の成果がうかがえる。説明や方法を答える問題に関しては、無答率が減り、解答に向かう意欲が感じられた。しかし、数学的な表現を用いて説明したり、筋道を立てて説明したりする力は十分ではなく、情報を整理し数学的に処理する力や考察し表現する力、身に付けた知識・技能を解決に活用する力の育成が望まれる。

【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の正答率は高かった。一方、計算問題や記述問題、作図問題などの思考力・判断力・表現力を必要とする問題では正答率が低かった。また、無答率は昨年と同程度であった。自然の事物・現象について主体的に探究し基本的なことを正確に理解するとともに、文章やグラフなどを読み取る力や、観察・実験の技能・結果・考察を文章やグラフなどで正確に表現する力、実生活や他教科で身に付けた知識・技能を活用する力の育成が必要である。

【英語】

思考力・表現力を重視する問題が増え、そういった学習経験の少ない受検生にとっては難しいと感じる内容だったと思われる。まとまった英文を読む問題では、書かれている内容をある程度の速さで、正確に読み取る力が不足している。英語を使って表現する問題では、定型表現は定着しているが、読んだことをもとに表現したり、自分の考えを文章にしたりするといった応用表現には課題がある。「聞くこと」と「書くこと」、「読むこと」と「書くこと」など複数の技能を統合して活用する力の育成が一層求められる。